

「スクール COBOL2002」の新機能の概要

「スクール COBOL2002」は、2002 年に ISO で制定された
第 4 次国際規格[COBOL2002 規格]の主要な機能をサポートした製品です。

1. 翻訳指令による条件翻訳

「翻訳指令」が記述された箇所は、コンパイルの最初の段階でソースプログラムに対して、「翻訳指令」の種類に応じた処理を行います。「翻訳指令」のうち、「条件翻訳」は、値とソースプログラムの範囲を指定して記述します。「翻訳指令」で指定した値が、コンパイラオプションに設定された場合に、該当するソースプログラムの範囲をコンパイル対象にします。

この機能により、プラットフォーム固有の処理、バージョン固有の処理などが、1つのソースプログラム内で管理できます。

【記述例】

```
>>IF 翻訳変数V IS DEFINED
*>翻訳変数Vが定義されているときに有効となる
DISPLAY "DEFINED".
>>ELSE
*>翻訳変数Vが定義されていないときに有効となる
DISPLAY "NOT DEFINED".
>>END-IF
```

【その他の翻訳指令】

- ・旧規格仕様警告 (FLAG-85)
- ・ソースリスト出力指示 (LISTING)
- ・例外の伝播 (PROPAGATE)
- ・ソース形式(自由/固定書式) (SOURCE)
- ・発生する例外の指示 (TURN)

など

2. TYPEDEF 句／SAME AS 句

「TYPEDEF 句」はデータのひな型を宣言できます。複数のデータで構成された「データ構造」を1つのデータ型として宣言し、「TYPE 句」で利用してデータの実体を定義することができます。

「SAME AS 句」は既に記述されているデータ構造と同じデータ構造を簡単に記述できます。

データ定義部分を簡潔に記述できます。

【記述例: TYPEDEF 句】

```
*>データ型「日付」を宣言する
01 日付 IS TYPEDEF.
   05 年   PIC 9(4).
   05 月   PIC 9(2).
   05 日   PIC 9(2).

*>データ型「日付」の「受注日」を定義する
01 受注日 TYPE 日付.

*>データ型「日付」の「納入日」を定義する
01 納入日 TYPE 日付.
```

3.利用者定義関数

COBOL が提供している組み込み関数に加えて、利用者が関数を作成できます。従来の入れ子プログラムとは異なり、IF 文などの条件式や計算式の中に記述でき、判定内容や計算内容を判りやすく簡潔にまとめることができます。

【記述例：関数の定義】

```
IDENTIFICATION DIVISION.  
FUNCTION-ID. 最大公約数.  
DATA DIVISION.  
LINKAGE SECTION.  
01 A PIC S9(9).  
01 B PIC S9(9).  
01 R PIC S9(9).  
PROCEDURE DIVISION  
    USING A B RETURNING R.  
...
```

【記述例：関数の使用(計算式)】

```
COMPUTE 結果 = FUNCTION 最大公約数(X Y).
```

【記述例：関数の使用(条件式)】

```
IF ( FUNCTION 最大公約数(X Y) < 10 ) THEN  
...
```

4.共通例外処理

プログラム実行中に発生する様々なエラー要因が、例外名として細かく定められました。

従来からある、入出力エラー処理における USE 文の宣言手続きに加え、例外名を使うことでより柔軟な例外処理を記述できます。

【記述例：桁あふれの例外検出】

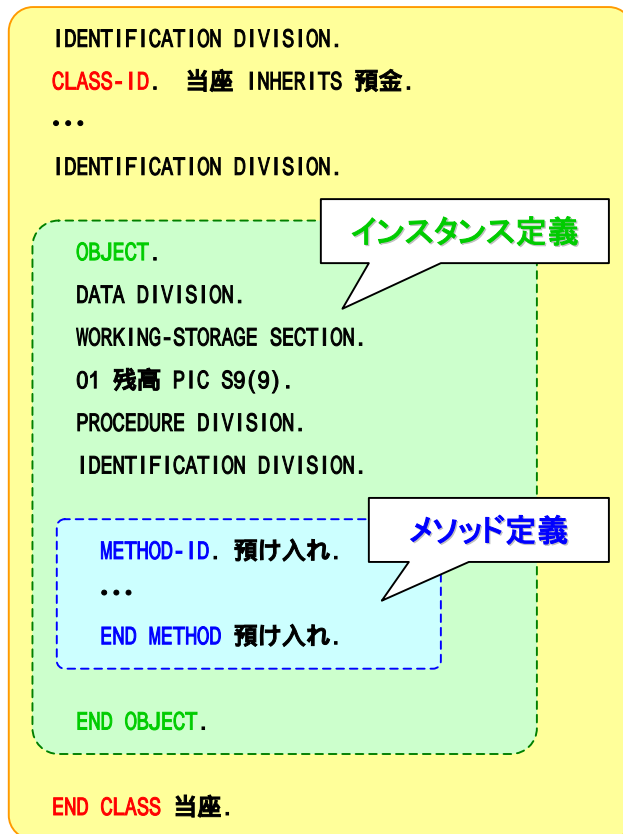
```
01 A PIC 99.  
...  
PROCEDURE DIVISION.  
DECLARATIVES.  
    SIZE-OVERFLOW SECTION.  
    USE AFTER EXCEPTION  
        CONDITION EC-SIZE-OVERFLOW.  
...  
END DECLARATIVES.  
>>TURN EC-SIZE-OVERFLOW CHECKING ON  
MOVE 100 TO A.  
*> システムが例外発生を自動検出  
...  
IF A > 60 THEN  
    RAISE EXCEPTION EC-SIZE-OVERFLOW  
*> 例外処理を任意に呼び出す
```

5.オブジェクト指向機能

C++や Java™と同様にオブジェクト指向プログラミングがサポートされました。

「継承」、「ポリモルフィズム」、「カプセル化」などの概念により、COBOL の持つ高い生産性をさらに高めることができます。

【記述例：クラス定義】



6.自由形式正書法

従来から規定されている「固定形式正書法」に加えて、行番号領域や標識領域のない「自由形式正書法」が採用されました。

【記述例：自由形式正書法】

